

コロナ禍の中、子どもも教職員も学力向上、がんばっています！

田川市教育委員会 教育長 ^き吉 ^{りゅう}柳 ^{けい}啓 ^じ二

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大による約3か月の臨時休校等、本当に大変な一年でした。市内の小中学校は6月から本格的な教育活動を再開しましたが、保護者や市民のみなさんから、「休校が続いた分の勉強の遅れは取り戻せますか？」「子どもたちの学力は大丈夫ですか？」という声々が教育委員会に多く寄せられました。

その声に対して、私は「田川市は、無理をして登校日を増やすことはしません。コロナ禍での子どもたちの心身の状況を把握しながら、教育活動の質を高め、学力は伸ばします！」と答えてきました。臨時休校が始まった3月に教育委員会・学校で作戦会議を開き「授業時間数削減にともなう学力保障の基本方針」を作成し、「教科内容・行事等の思い切った焦点化・重点化」「基礎基本の徹底」「自学自習力の向上」などに全小中学校で取り組みました。

その結果、令和3年2月に市内全児童生徒を対象に実施した「標準学力テスト」において、小中学校とも前年度を上回る結果を出すことができました。特に小学校の算数は、1年生から6年生全学年が全国平均を大きく超えることができました。

(図1と図2)

これらの結果は、平成28年度から粘り強く、全小中学校の全教職員が「陰山メソッド(読み・書き・計算の徹底反復)を中心に子どもたちの集中力と学習意欲を高めてきたこと」「電子黒板等のICT機器を活用したわかる授業づくりに取り組んできたこと」の成果だと捉えています。さらにもう一つ。これが一番大きな要因だと思いますが、各学校が自校の子どもたちの実態を踏まえて「今まで経験したことのない厳しい状況の中で、どうすれば、子どもたちの力を伸ばせるか」を校長のリーダーシップのもと、全職員で工夫検討し、創造的な実践に挑戦したことです。

この6年間、田川市教育委員会は、“子どもたちの育ちの姿とデータの両方で成果を出し、家庭・地域に元気と勇気を！”というスローガンのもと、行政・学校が「ぐるみ」で学力向上に取り組んできました。まだまだ、コロナ禍は続きますが、子どもたちと教職員と共に、「今の状況の中でも出来ること」「今の状況だからこそ出来ること」を探りながら、さらに前進したいと思っています。市民の皆様の応援、よろしくお願いいたします。

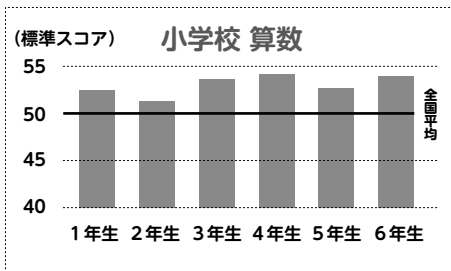


図1 学年別(小1～小6)の調査結果

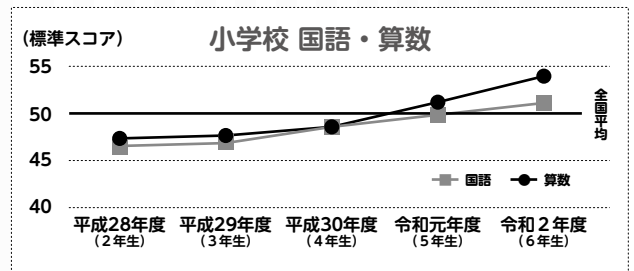


図2 令和2年度小学6年生の調査結果の推移